

平成30年度 学力向上指導改善プラン

三田市立狭間中学校長 笹倉 尚光

学校教育目標		人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きる生徒の育成					
推進主体		管理職・主幹教諭(研究推進担当)・各教科代表で研究推進委員会を設置し、学力向上に向けた取り組みを推進する					
学力に関する前年度の現状・経年の課題等							
学力・学習の状況	全国学力・学習状況調査の結果から	国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆国語A(主として知識)国語B(主として活用)ともに、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言語についての知識・理解・技能すべての区分について、おおむね満足できる状況にあるという結果であったが資料を活用して自分の考えを具体的に表現することに課題がある。 ◆本や文章の展開に即して内容を読み取ったり、古典作品を理解したりすることに課題がある。 ◆感想文や説明文を書くことが苦手な生徒も多く、自分の考えを他の人に説明するのが苦手な生徒も多い。 				
		数学	<ul style="list-style-type: none"> ◇数と式・関数・資料の活用においては、すべての区分についておおむね理解できている状況にある。 ◆関数において、2元1次方程式とそのグラフの関連についての理解が不十分である。また、具体的な事象を、関数を利用して解決することに課題がある。 ◆図形の証明問題においては、筋道を立てて論理的に証明することは苦手であり、日常にある具体的な事象と数学とを関連づけて考えることに課題がある。 ◆資料の活用では、示されたグラフをもとにそこに見える傾向を正確に捉え説明することにも課題がある。 				
授業や定期考査等		<ul style="list-style-type: none"> ◇授業では発表する機会が与えられ、話し合う活動も行われている。生徒は、自分の考えを他の人に説明したり、意見を深めたり広めたりすることができる。 ◆授業の始めに学習目標を確認して終わりに学習内容を振り返る活動があまり行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の場面で活用できるよう、班活動や学習発表会など、資料を使って発表し、聞く場の設定を増やす。 ○文章をしっかりと読み取るために、漢字や文法の知識を増やし、活用する練習を行う。 				
学習習慣や生活習慣		<ul style="list-style-type: none"> ◇テレビを見たりゲームやインターネット等をしたりする時間が少なく、家庭学習の時間も多い。 ◇学校の規則や約束を守り、学校生活を楽しいと感じている。 ◆読書習慣があまり身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「授業がわかりやすい」の数値を90%以上にする。 				
校内研究・研修の状況	基礎学力の定着に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ◇少人数授業等の多様な授業形態や学習相談(がんばりタイム)等で、基礎学力の定着に取り組んでいる。 ◇授業を真面目に取り組む宿題や提出物もできている。 ◆特別支援教育の視点で、授業の在り方や支援方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「基礎学力の定着に向けた取り組みをしている」の数値を90%以上にする。 				
	学習意欲向上に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ◇「生活アンケート」等で個々の生徒の実態把握に努め生徒と向き合う時間を確保することで、安心した学習環境を保障している。 ◆精神・情緒面に不安を持っている生徒への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「生徒のことをよく理解して適時・適切に指導している」の数値を90%以上にする。 				
連携の状況	家庭・地域等	<ul style="list-style-type: none"> ◇オープンスクールや学校行事で学校開放している。 ◇地域ボランティアの協力で図書室を開放している。 ◆保護者の授業参観や講演会等への出席が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問、三者面談、講演会等を、年間行事計画に入れる。 				
	小・中学校	<ul style="list-style-type: none"> ◇保・幼・小・中の連携による取り組みを実施している。 ◇小・中の連携による生徒の実態把握に努めている。 ◆研究授業の交流は、十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生を中心に児童の学力と生活状況を把握する。 ○学期に1回の連絡会と、小学6年生への出前授業を実施する。 				
		4月	10月～11月	2～3月			
		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための教師の具体的な手立て等)			
		中間評価	年度末評価	評価			
		(今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果等を踏まえての設定目標等の見直し)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)				
学力・学習の状況	全国学力・学習状況調査の結果から	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な文と図表やグラフなどの資料を関連させたりして読む活動を充実する。 ○さまざまな種類の読み物に触れる機会を持たせるため、朝読を週2日実施し、図書ボランティアさんとの連携を図り、読書活動の充実を図る。 ○新学習システム教員と連携して、漢字・文法学習の充実を図る。 ○毎週木曜日の放課後の学習相談を充実させ学力補充を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な文と図表やグラフなどの資料を関連させたりして読む活動をさらに充実する。 ○新学習システム教員と連携して、漢字・文法学習の充実を図る。さらに、個々のつまずきに対応した指導を行う。 ○毎週木曜日の放課後の学習相談を充実させ学力補充を行い、できる実感を持たせる。 ○「書くこと」について、理論と実践両面からのアプローチを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事の比較や、表やグラフを用いた教材の学習により、文章との対応やその効果についての理解が深まった。 ○週に一度、20分程度の漢字のための時間を設け、定着が早くなった。 ○文法学習ではグループで確認作業を行い、互いに教え合う姿が見られた。 ○「書くこと」では、理論的には理解している。さらに速く、正確な文章が書けるよう指導する必要がある。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ○具体物・半具体物をもとに、体感的に物事をとらえる学習場を設定する。 ○数学的用語を活用し、既習事項の定義や公式をもとに根拠を図示して、筋道立てて考えを説明する活動を充実する。 ○ねらいを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査における関数、図形資料の活用項目で、平均正答率をA、B問題とも全国平均+5%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題場面を図示したり、条件を書き出したしりして、根拠を明確にし、筋道を立てて考える活動の充実を図る。 ○グループ学習を通し、物事を数学的に捉え、筋道を立てて考えを表現する力の充実を図り、深い学びができる授業を実践する。 ○予想を立ててから測定したり、図示したりするなど、感覚的に捉えた事柄を具体的に示す活動を充実する。 ○毎週木曜日の放課後の学習相談を充実させ学力補充を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、数学用語を的確に使い、学習のポイントを説明できるようになってきている。 ○グループ学習において、事象を数学的に捉え、結論を見いだすまでのプロセスをお互いに発表する機会を設定し、全体で共有することで、徐々に数学的な考え方が身についてきている。 ○学習相談では、基本的な計算問題を反復練習することにより、計算力がついてきており、本人の自信につながった。 	A	
授業や定期考査等		<ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業・楽しい授業の改善に努める。 ○発表や話し合いを大切に授業で、自尊心を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「授業がわかりやすい」の数値を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を充実させ、授業力の向上に向けた研究に取り組む。 ○授業の「見通しと振り返り」や「主体的・対話的で深い学び」等の授業形態を取り入れるなど、授業の改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を中心に授業力の向上に向けて取り組んでいる。更に、授業公開等を通して授業力の向上に努める必要がある。 ○「主体的・対話的で深い学び」の授業形態を、全教科に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートから「わかりやすい授業」に取り組んでいることがわかる。 ○今後は、更に校内研究を推進し、新たな授業形態を全教科に定着させるとともに、個々の教員の授業力向上に努める。 	B
学習習慣や生活習慣		<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を定着させ、規範意識を高める。 ○自らの計画で、家庭学習を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「規律正しく、落ち着いた学校生活を送っている」の数値を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査前に学習計画を立てさせ、効率のよい学習方法を身に付けさせる。 ○平日と土日、部活動のある日とない日等、生活のリズムを崩さないように家庭生活の過ごし方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強と部活動を両立させ、家庭学習の時間も確保されている。 ○提出物を守り、宿題もできている。 ○規律や約束を守って生活できている。 ○読書の習慣を定着させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全で安心した学校生活が保障され、生徒の規範意識も高い。生徒は規律や約束を守り、授業も集中して取り組んでいる。 ○家庭でも生活リズムを崩すことなく、宿題や学習の時間が確保されている。 	A
校内研究・研修の状況	基礎学力の定着に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に課題のある生徒を中心に基礎学力の定着を図る。 ○特別支援対象生徒への指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「基礎学力の定着に向けた取り組みをしている」の数値を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数の授業や同室で複数の教師による指導等で、基礎学力の定着を図る。 ○毎週木曜日と夏季休業中等に学習相談を実施して、学習困難な生徒の支援を行う。 ○朝学習や朝読書の時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数や同室で複数の教師による授業で、きめ細かな指導ができている。 ○夏季休業中や毎週1回の学習相談で、学習困難な生徒への理解と指導ができている。 ○3年生で朝の学習を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートから「基礎学力の定着に向けた取り組みをしている」ことが分かる。今後は更なる取り組みで充実させる。 ○日々の授業において基礎学力が定着するように工夫と改善を行う。 	B
	学習意欲向上に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談を充実させる。 ○生徒理解に努め、全教職員の共通した指導のための研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「生徒のことをよく理解して適時・適切に指導している」の数値を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談週間を年2回設けるとともに、毎月の「生活アンケート」等をもとに、適時・適切な生徒との面談を行う。 ○生徒理解や支援方法等の研修を、学期に1回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の「生活アンケート」をきっかけに生徒と面談し、一人一人の気持ちに寄りそう丁寧な指導ができている。 ○特別に支援のいる生徒への理解と適切な指導についての研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートから「生徒のことをよく理解して適時・適切に指導している」ことが分かる。 ○生徒に向き合う時間を確保し、面談や教育相談を適時・適切に行う。 	A
連携の状況	家庭・地域等	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者との連携を密にして、生徒の学習環境を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問、三者面談、講演会等を、年間行事計画に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて家庭訪問を行うなど、保護者との連絡を密にして、生徒への学習指導を相互に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と連携し、適時・適切な指導を行っている。更に家庭学習の在り方や生活リズムの確立にも努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活に適応できない生徒や対人関係に課題のある生徒の家庭と連絡を密にし、保護者の理解と協力のもと、指導にあたる。 	A
	小・中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生を中心に児童の学力と生活状況を把握する。 ○学期に1回の連絡会と、小学6年生への出前授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回の連絡会と、小学6年生への出前授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の児童生徒の学力や課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中が連携して、個々の生徒への具体的な対応や指導を行っている。 ○小中連携の新たな取り組みができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携では、担当教員がそれぞれに課題の把握に努め、多方面から対応している。 ○児童会と生徒会の交流が活性化している。 	A